

笹川記念保健協力財団 奨学金支援

助成番号：2018B1-006

(西暦) 2019年 3月 11日

公益財団法人 笹川記念保健協力財団

会長 喜 多 悦 子 殿

## 2018年度奨学金支援

## 完 了 報 告 書

標記について、下記の通り完了報告書を添付し提出いたします。

### 記

進学先 千葉大学大学院 看護学研究科 高度実践看護学分野 成人看護学領域  
博士後期課程 1年

氏名 小林 成光

## I. 修学内容

2018年度は、高度実践看護学分野 成人看護学領域の授業において、自身の研究課題に関してプレゼンテーションを行い、博士論文の内容を洗練しました。修士課程を卒業後、年数が経過していたこともあり、博士後期課程 1 年目では、研究計画の立案や、国内外の最新の知見に基づき、文献検討を行いました。また、抄読会等に参加し、様々な研究分野における最新の知見や研究方法論に関する学びを深めました。現在は、継続して研究計画を洗練することに努めるとともに、研究分野における文献レビューを行っています。

また、博士課程在籍中に、以下の活動を行いました。

### 1. 論文投稿（共著含む）

- ・ Jun Kako, Masamitsu Kobayashi, Yusuke Kanno, Asao Ogawa, Tomofumi Miura, Yoshihisa Matsumoto, The Optimal Cutoff Point for Expressing Revised Edmonton Symptom Assessment System Scores as Binary Data Indicating the Presence or Absence of Symptoms, American Journal of Hospice & Palliative Medicine, 2018
- ・ Kako J, Morita T, Yamaguchi T, Kobayashi M, Sekimoto A, Kinoshita H, Ogawa A, Zenda S, Uchitomi Y, Inoguchi H, Matsushima E : Fan Therapy Is Effective in Relieving Dyspnea in Patients With Terminally Ill Cancer: A Parallel-Arm, Randomized Controlled Trial., Journal of pain and symptom management, 2018

現在、上記以外にも、緩和ケア病棟入院後に看取りとなった患者とその家族の情報を訪問看護師へ提供することの有用性を検討した研究や、がん患者とその家族が抱える経済的な悩みを質的に分析した研究を、論文投稿中です。

### 2. 学会発表（共著含む）

- ・ Akemi Okamoto, Tamae Miyatsu, Yuko Tanaka, Masamitsu Kobayashi, Tomoko Majima, Current Status of Employment Support for Cancer Patients Provided by Nurses working in Cancer Hospitals, International Conference on Cancer Nursing (ICCN), 2018
- ・ Atsuko Maekawa, Kazue Yoshida, Shogo Watanabe, Sandai Ohnishi, Naoko Horii, Rumi Takei, Akiko Okawa, Masamitsu Kobayashi, Katsuhisa Shindo, Evaluation of the Evacuation Rhythm Using the Bowel Electrometer, International Conference on Cancer Nursing (ICCN), 2018
- ・ 菅澤勝幸, 栗山尚子, 平野勇太, 前川智子, 市川智里, 上杉英生, 田中優子, 東樹京子, 小林直子, 角甲純, 小林成光, 關本翌子, 意思決定支援における協働への示唆 ―看護師が面談に同席するメリット・デメリット―, がん治療学会学術集会, 2018
- ・ 平野勇太, 田中優子, 角甲純, 市川智里, 上杉英生, 東樹京子, 小林直子, 栗山尚子, 前川智子, 菅澤勝幸, 小林成光, 關本翌子, 患者の意思決定支援における協働への示唆 ―面談に同席する看護師に対する医師の要望から―, がん治療学会学術集会, 2018

- ・角甲純, 小林成光, 關本翌子, 終末期がん患者が体験する呼吸困難に対する送風支援の無作為比較試験後の後治療の効果について, 第 38 回日本看護科学学会学術集会, 2018
- ・腰本さおり, 山口ひとみ, 牧田明有美, 市倉加奈子, 小林成光, 角甲純, 松島英介, 本間健, 緩和ケアに携わる栄養士が患者対応の際に認識した困難場面および管理栄養士に必要な教育, 姿勢, 体制の検討, 第 22 回日本病態栄養学会 年次学術集会, 2019
- ・Masamitsu Kobayashi, Jun Kako, Oosono Yasuhumi, The effect of providing information on deceased palliative care patients to visiting nurses, The 22nd East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) , 2019
- ・岡本明美, 宮津珠恵, 田中優子, 小林成光, 眞嶋朋子, がん診療連携拠点病院のジェネラリストナースによる患者への就労支援の現状－病棟・外来・化学療法室・看護相談室における調査－, p225, 第 33 回日本がん看護学会学術集会, 2019
- ・Jun Kako, Masamitsu Kobayashi, Yasufumi Oosono, Kohei Kajiwara, Mika Miyashita, Fan Therapy for the relief of dyspnea in malignant and non-malignant diseases, ONS 44th, 2019

### 3. 社会活動 (執筆, 講演・講義など)

#### 1) 執筆

- ・書評「3 ステップ実践緩和ケア 第 2 版」－困ったときのお役立ち本－, 緩和ケア, 28(3) 231, 2018
- ・特集 お金と仕事 リアルな支援「仕事を辞めたほうがよいか／辞めてしまおうか」と言われたとき, 緩和ケア, 29(1)32-3 , 2019
- ・がん薬物療法における職業性暴露対策 ガイドライン 2019 年版, 金原出版, 2019
- ・連載コラム えびえんす・あれんじ・な～しんぐ (EAN) 就労支援, 緩和ケア, 29(2), 2019

#### 2) 講義、講演

- ・E-learning 講師, がんプロフェッショナル養成プラン e-ラーニング講義, ライフステージにおける壮年期がん医療 (入院期間を最短化する外科治療と就労支援), 2018
- ・E-learning 講師, がんプロフェッショナル養成プラン e-ラーニング講義, ライフステージにおける壮年期がん医療 (外来放射線治療と就労支援), 2018
- ・講師, 効果的なグループワークの進め方, NPO 法人 がん暮らしを考える会, 2018
- ・司会, 事例検討, がん暮らしの相談事業全国フォーラム 2019 東京, がん暮らしを考える会, 2019

#### 4. 研究活動

博士後期課程の研究課題に関する支援方法およびその有効性を明らかにする目的で、文献レビューを行っています。研究疑問を「P：がん患者を対象に、I：心理的／教育的介入をすると、C：usual careと比較して、O：復職率が高い／QOLが高い、S：限定なし」としました。データベースには、PubMed、CINAHL、CENTRAL (Cochrane Controlled Register of Trials)、医中誌のデータベースを活用しています。現在、各データベースにて検索式を設定し、PRIZMAのフローチャートに則り文献検索を行っております。その結果、HITした論文1253件からダブルチェックで重複論文を削除し、1010件となりました。現在、検索した文献のリストを3人のレビュワー間で共有し、主題、抄録を読み、該当する文献を抽出（1次スクリーニング）しました。現在は、抽出した文献を精読し、その中から内容が該当する文献を抽出（2次スクリーニング）を行っています。

#### II. 学びを今後どのような研究や仕事に生かしたいか

今後は、文献レビューを進め、研究発表および論文投稿を目指していきたいと考えています。また、博士論文の研究課題である就労世代のがん患者に対する支援プログラムの開発に向け、研究計画書を作成するなど、研究を進めていきたいと思えます。

最後になりましたが、2018年度奨学金支援をいただき、充実した博士後期課程の修学に努めることができました。ご支援いただきました関係者の皆様に、心より御礼を申し上げます。